

ティーチング・ステートメント

所属 診療放射線学科

名前 吉井勇治

作成日 2022.03.12

【責任】

診療放射線学科において放射線安全管理を中心とした、教育と業務を行っている。主たる教育活動は放射線安全管理に関する科目（放射線安全管理学Ⅰ・Ⅱ、関係法令、放射線計測学実験等）の講義や本学の放射線管理区域に立ち入る者に対する教育等を実施している。

【理念】

放射線画像診断や放射線治療は、人体への放射線照射を伴う行為であるため、それにかかわる医療従事者や患者の被ばくを適切に管理することが必要不可欠であり、放射線安全管理学は診療放射線技師国家試験の試験科目となっている。そのため診療放射線技師を目指す学生たちは、大学で放射線安全管理とそれに関係し、基礎となる知識をしっかりと身につけてほしい。さらに、放射線が人体に及ぼす影響についてはまだ解明されていない部分もあり、その知識と放射線管理の方法論は常に更新されているため、学生たちには、最新の情報を自ら収集し、修得した知識と新たに得た専門的な知識を結びつけて考える能力を養うことができるようになってほしい。

また、教員としては、学び続けることを軽視せず、事故の改善と向上を目指して学生に対して学習の姿勢を示し、学生にとっての模範となるように、常に心掛けていきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、①基礎知識の定着、②知識の接続という 2 つの方針に従って、授業を行っている。

方針 1. 基礎知識の定着

方法 1-1：授業のはじめに、授業目標と評価法を提示し、修得すべきことをスライドと配布資料で示すことにより、学生が授業と事前・事後学修で行うべき事と達成すべき事が分かるようにしている。

方法 1-2：毎回の授業で、前回の授業内容の小テストを実施し、正答率が低い問題は次回の小テストで繰り返し出題し、知識の確実な定着を図っている。

方法 1-3：国家試験対策として覚えるべき内容（基礎レベル）と、臨床現場で必要となる内容（応用レベル）を分けて説明することで、基礎知識を効率的に覚えられるようにしている。

方針 2. 知識の接続

方法 2-1：病院を含む放射線取扱施設の放射線管理の事例や、放射線トラブルとその対応の文献を授業スライドで提示し、基礎的な知識と現場でどのように応用されているかイメージでできるようにしている。

方法 2-2：臨床実習後の講義では、放射線安全管理や放射線関連インシデント・事故に関するグループワークを実施し、医療施設で聞いた・経験した情報を学生間で共有することを促し、互いの不足を補える機会を設けている。

方法 2-3：実験の冒頭では、事前学習の理解度チェックと併せて、これまでに学んだ科目（特に基礎科目）の内容と実験内容との関係を口頭質問し、分からなかった間については時間を取って解説を行っている。さらに、実験内容と臨床現場の実務との関係も説明し、各実験の重要性を明確にしている。

【成果・評価】

・学生による授業評価アンケートの結果では9割以上の学生から満足していると結果が得られている。さらに、学生から放射線安全管理に興味を持ったといった前向きなコメントも得られている。

【目標】

（長期目標）

- ・高水準な国家試験合格率の維持
- ・国家試験対策だけではなく、診療放射線技師としての学びを続けることができる人材の育成

（短期目標）

- ・学生からのコメントや小テストの結果の傾向を次の授業資料にフィードバックし、基礎となる知識を効果的に修得できる授業資料へ改善する。
- ・学生が主体的に学び、知識が定着するようにグループワークの充実を行う。